

# 岐阜分室便り

## 『2005河川環境メッセin岐阜』盛大に終わる

岐阜分室長 大竹 良昌



7月の14、15日に岐阜メモリアルセンターで、昨年に引き続き「2005河川環境メッセin岐阜」(以下「環境メッセ」という)が「IT CITY MESSE in GIFU」と共同で開催されました。

環境メッセは、岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」の取組の一つとして、自然共生型川づくりに関心を持って研究開発を進めている企業や学校、NPO、市民団体、行政、研究機関等が広く県民に取組の姿勢をアピールし、研究成果を発表する場です。今年は、これまでの河川、道路、山林、農地関係等の基盤整備全体の自然再生の取り組みに加えて、近年問題となっている局地的集中豪雨等の異常気象や地球温暖化、都市部におけるヒートアイランド現象への対策等の環境面の取り組みにもテーマを広げる他、環境に関連する新技術、新工法を併せて紹介することにより、産学民官が連携した「環境」に関する幅広い取り組みを紹介するものです。

テーマを『～人と自然の共生を支える技術展～』として、自然共生技術ゾーン(企業出展)、行政・研究開発ゾーン、市民参加ゾーンの3つのゾーンと河川環境情報広場で構成され、101の産学民官などが出展をしました。我がリバーフロント整備センターもこのイベントを後援し、岐阜分室も行政・研究開発ゾーンで「自然再生への取組み」をパネル、ビデオで紹介するとともに、会場内唯一の書籍の販売を行いました。



また、本年は「愛知万博」業務をしていることもあり、「自然再生への取組み」だけでなく万博業務のテーマである「水の循環」についてのPRも兼ねて

パビリオン内で展示してある水循環パネルの縮小版の展示と床スクリーン映像「水の旅」のDVDやパンフレットの配布などで紹介しました。

環境メッセへの入場者は、両日で約19,000余人となり昨年比0.9倍といくらか減りましたが、出展者も昨年に比べ展示物に模型など実体観のあるものを展示したり、子供のおもちゃのサービスや浴衣姿の女性など趣向を凝らし、大変盛大に開催されました。

### ◎出展について

前日から展示品の搬入・飾り付けが一斉に開始されました。本年の分室は「愛知万博」業務を全員一丸で取り組んでいるため、設営から説明まで職員を分割して対応しました。

一日目、午前は林主事のみで対応しました。人気のある企業出展は昨年より模型や展示物に趣向を凝らしたことから、多くの人が入っているように見受けられました。我がブースは、県関係、コンサルタント関係の方が書籍購入の目的に来場されていました。

二日目、古田岐阜県知事が河村理事、和田岐阜大学名誉教授、小俣岐阜県河川課長のご案内で視察に見えましたが、我がブースには残念ながら立ち寄りませんでした。



### ◎感想

環境メッセの趣旨にあった新しい取組などの情報提供を多くの参加企業が取り組んでいます。我々もただ出展するのではなく、常に新情報の提供を心がけていく必要があります。